

大平地区

子どもを語る 座談会

7月8日(水)大平地区公民館で、「子どもを語る座談会」が開催されました。はじめに、南山崎小学校、港南中学校から、「夏休みの生活」等について話があり、子どもたちの夏休み中の生活のあり方について、確認しあいました。つづいて、石丸淳先生の講話を聞き、その後、グループで「子どもの健全育成のために親と地域ができること」について意見交換をしました。石丸先生は「生きる力の根を育てる」と題して次のような内容の講話をされました。



生きる力の根を育てる

1 失われた風景のように思います。

- (1)今、日本全国から消えた風景
 <原生活体験の欠如> ア 生産活動に参加 イ 親への感謝 ウ 親子間の思いやり
 エ 将来への思い オ 待つことの意味を知る カ 満ち足りた心
- (2)子どもたちの気になる姿
 良い面……語い力が豊か 情報が豊か
 悪い面……不登校 ひきこもり いじめの問題
- <一般的に言われること> ○自分を守る力の衰退 ○相手の立場に立てない ○自主的に判断できない
 ○清潔・潔癖症候群 ○人間関係づくりが下手 ○集団づくりが下手 等
- ※ 根っこが欠けている。色々な場で活動をし、子どもと話をすることで、子どもに根っこを作ってやる。あとは「自分の思うようにやりなさい」と言えばよい。

2 「学ぶ」「教える」とは、どういうことなのでしょうか？

<雨の日の水やり>
 「雨が降りよるから水やりはいらないのではない？」
 「ううん、僕の水は雨とはちがうんよ。」
 話し合うことで、子どもの心の内側(思い)が見えてくる。
 「学ぶ」とは交流であり、「教える」も交流である。一緒に何かをするところに教えの根本がある。



3 豊かな「かかわり」の世界を築きましょう。

「かかわり」とは？
 ○まず行動・参加 ○「命」に触れる ○生き方に触れる
 ○喜びと感動の体験 ○共生の意識と感謝を知る

4 どんな力を伸ばすのですか？

- 積極的な「聞き方」のできる子に ○あたたかいメッセージの出せる子に ○質問ができる子に
 ○相手の感情が分かる(共感)子に ○自分を抑えられる子に ○問題解決ができる子に

5 おわりに

子どもの年齢に沿う指導を忘れないようにしましょう。
 一番大事なことは？といつも思いたいですね。安心・安全・健康が必須条件です。
 子育てに方程式はなく、正解も一つではありません。100点満点もありません。
 夢を語る自分でいたいですね。



[伊予市家庭教育情報誌]
ほのぼの 第17号



子育てがんばっています!

仕事と家事と育児、毎日同じことのくり返しですが、子どもたちとの会話や表情は毎日違ったものがあります。子どもたちにはげまされ一緒に親も成長していっていると実感しています。

お姉ちゃんが2人、料理や片付け、弟の面倒など手伝ってくれます。日々感謝しながら、これからも家族仲良くがんばっていきたいと思います。
 そして、子どもたちにとっての、たった1人の、ひいーばあちゃん。
 いつまでも長生きしてください♡

曾祖母：大葉つゆこ 子ども：りこ・結衣・煉
 父母：赤間浩昭、厚子 (下吾川)

個別の相談や少人数グループの話し合いを希望される方は下記までご連絡ください。

伊予市家庭教育・子育てサポートグループ

連絡先

☎ 982-5155 FAX.982-5156
 〒799-3113 伊予市米湊 768-2 (伊予市中央公民館内)

子育て真っ最中の
 皆様の応援をします。

伊予市家庭教育・子育てサポートグループ

なかむら保育所 での学習会

今年度に入って最初の子育て学習会をスタッフ研修も兼ね、6月6日(土)になかむら保育所で行いました。保育参観の後、約50人の保護者が集まり子育てについての講演を聴きました。講師には、愛媛県出身の愛媛大学名誉教授、マッキーこと山本万喜雄先生をお迎えし、時々親父ギャグを交えながらの楽しい子育て論を拝聴しました。講師からの質問も飛び交う中、出席者は終始熱心に聴いておられました。

「子育て・子育て・親育ち」

まず子育て。育つのは子ども自身であるということ。育ちというのは巣立つことにつながっています。子育てとは、子どもの育つ道筋に沿って念入りな配慮をしていくこと。子どもの育つ道筋とは、転びながら転びながら転ばなくなる、こぼしながらこぼしながらこぼさなくなることを意味します。大人がやらなければならないことは、子どもが転んでもいい環境をつくることです。こうした面倒な子育てを通して、親が親になるのです。その途中で問題があっても、気がついたところで軌道修正すればいい、そう考えると楽になります。

家庭教育・子育て学習会

～こどもたちの未来を輝かせるために～

8月5日(水)、伊予市保健センターに於いて、JAえひめ中央太陽市野菜ソムリエ津川小百合さんを講師にお迎えし、市内の参加希望親子を対象に子育て講座を行いました。

講話「体がよろこぶ野菜」では、ブラックボックスに隠された季節の野菜を、手触りだけで当てるというゲームを行いました。触感だけでは判断しにくい野菜もありましたが、全員の子どもが見事に言い当て、日頃から野菜に親しんでいる様子が感じ取れました。食物の栄養や働き、バランスよく食べることの大切さについても、クイズ形式や紙芝居で分かりやすく説明されたので、幼児も興味深く聞き入っていました。

「野菜を使った料理に挑戦」では、4つの班に分かれ、季節の野菜をたっぷり使った調理をしました。家庭では、料理の手伝いをほとんどしないという子も、餃子の皮にかぼちゃを包むこと、電子レンジでブルーベリーソースを作ること、野菜を刻むこと等に果敢に挑戦しました。ある母親は、「毎日、献立がワンパターンになりがちなので、このような料理を教えてもらって有難い。また、今日は、我が子の積極的な姿に驚いた。来年も参加したい。」と、話していました。

「おいしい」試食している親子の笑顔が、手作りの「食」の大切さを物語っていました。家族の健康・交流のためにも、多くの親子がこのような機会をとらえて学習されることを願っています。

【献立】

スイートかぼちゃの
包み揚げ



みかんジュースのピラミッド



簡単ブルーベリーソース



野菜ごろごろわくわくスープ



さっちゃんの子育て相談日記

甘えの意味を
知ろう



ある保育所での学習会で、若い父親が言ったことを思い出しました。

「3歳の娘がいます。私が出勤するとき、いつも、『寂しい』と訴えてくるのです。急いでいる時に甘えないでくれと腹立たしく思う反面、友達から仲間はずれにされているのかと気になったり、愛情不足なのかと不安になったりします」

父親業3年目、娘のことを大切に思い育てて来られたのだとその様子から感じられました。

撫でる、見る、抱きしめる、話しかけるなどの行為は相手のことを認めるためのものであり、特に親愛の情のこもった行為は相手を快い気分させるものです。人は皆、生きている限り、食事をとると同じようにこのような行為を必要とします。

今はあなたのごことなどかまっていられないわという大変な時に限って「抱っこ、抱っこ」とせがまれ、無視すると地面に座り込んで泣き叫ばれた記憶があります。また、高熱で大慌てしたこともあります。2歳位までの幼児期によくあることです。3歳の娘さんは言葉の表現も豊かになっています。また、行為そのものを要求することから人格や存在を認めてもらうことへの欲求に発展していると思います。このタイミングに「寂しい」は短くて意味のある表現だと思います。

「〇〇ちゃん パパお仕事に行ってくるよ。はやく帰ってくるよ。そしたら、晩御飯一緒に食べようね。」

愛情のこもった一言と目くばせは3歳の娘を快く満足させることでしょう。

(実例をある程度変更および抽象化しています。)

子育て
相談室

☎982-2602 (伊予市教育委員会社会教育課内)

相談内容についての秘密は厳守します。

子育て支援センター

6月26日(金)

おもちゃは、ぬいぐるみやミニカー
だけではありません。

絵本や絵の具も立派な遊び道具
なんです。

そんなのを親子でワイワイ、ガヤ
ガヤ、ワッハッハと楽しめたのでは
ないでしょうか。

かわいい手形、足形のアート
作品とても素晴らしかったです。

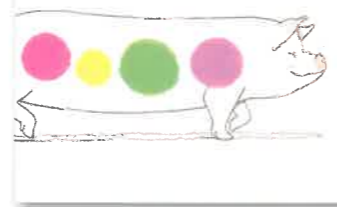


手作り絵本はとっても
ステキでした。手形
あそびもさわった感じを
楽しんでいるようで
とてもいい経験に
なりました。

絵本の紹介

「なにをたべてきたの？」 岸田 衞子 文/長野 博一 絵

なにを
たべてきたの?



しろぶた君、お腹が赤いよ

何を食べたのかな...

りんご、いちご、それともトマト...?

あらあら今度はお腹が黄色いよ

何を食べたのかな.....

レモン、バナナ、それともパイナップル...?

などなど子どもたちといっしょに色々な色の
食べ物を思いついてみて下さい。

そして、色々な色を好きになり、色々な食べ
物をモリモリ食べて、しろぶた君に負けな
いよう大きくなりましょう。

読み語り隊 隊長 橋本千春

うへの保育所での学習会

6月12日(金)に「社会性を育てる」と題して次のような話がありました。

- ① 発達のアンバランス
 - ② 生きる力となる心の三大栄養素
 - ・耐性(いやなことに耐える力)
 - ・自主性(自分で考えたり判断したりする力)
 - ・社会性(思いやり、感情を受け止める、自己主張と強調のバランス、遊びの技術などの力)
 - ③ 社会性を育てるために今できる家庭教育
(社会性は生まれた時点から育つものであり、人との交わりの中で育つもの。親が手本を・家庭での気持ちのよいあいさつを・早寝、早起き、朝ごはんを・助け合いを)
 - ④ 家庭教育とは巣立ち(親離れ子離れ)の準備期間
(大切にされ感覚を・認められ感覚を・夫婦の絆を)
- その後、約40人の保護者と5人のスタッフが小グループになり、子育てについての疑問や悩みを話し合いました。



育児がスタートしたばかりで、すべてが初めての経験で、これから
楽しみと不安とあります。
こういった講義や、同じ保護者さんの話を聞ける機会があると、
なるほどと思ったり、同じだなと思ったり貴重な時間になります。

グループ討議で皆さんと
「あるある」「そうそう」...と、
子育ての奮闘話ができて
よかったです。